



ミカ Jan van Eyck 聖BAVO大聖堂 Ghent

ミカ書は主なる神はお前たちに対する証人となられる。主は、その聖なる神殿から来られる。(1:2)という驚くべき言葉で始まっています。神自身が地上に降りて来るとは誰も想像したことはありません。その時、山々は溶け、平地は裂ける、と地上のすべては神の審判に耐えられないと語っています。神は、エルサレムを踏み、サマリアは瓦礫の山となり、砕かれ、焼かれ、粉碎されると民の罪をしっかりと目撃し、審判を下すと、ミカは激しい神の審判を預言し、それに悲しみ、嘆きの声をあげています。

ミカは、南ユダがアッシリアに服従し、その後ヒゼキヤ王により回復した時代(BC8-7世紀)にかけて活躍しました。同時期に、北イスラエルがアッシリアにより滅ぼされた状況を目撃したでしょう。モレシエトの人と紹介し、父の名前が記されていないことから、地方出身の一介の預言者です。

ミカは「わたし」の呼称を神に、また、自分自身に、自在に用い、わが民をヤコブの家と呼び、全イスラエルを対象にしていますが、登場する様々な地名は南ユダの町々です。町々での苦しみ、悲しみはエルサレムへと達すると言います。富をほしいままにして悪事を企み、住民を搾取する支配者、民を惑わし、正義の言葉を伝えない祭司や預言者、賄賂や代価を要求する裁判官や役人。指導者として上に立つ者たちの悪事のせいで、敵は我々を包囲した。彼らはイスラエルを治める者の頬を杖で打つ。(4:14)と都エルサレムの為政者の不正、腐敗を糾弾しています。

ミカはイザヤと同時代の預言者であり、アッシリアなど大国の脅威の下にありました。主は多くの民の争いを裁き／はるか遠くまでも、強い国々を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。(4:4)とイザヤと全く同じ言葉で平和への思いを予言しています。

また、真実の指導者を求める思いもイザヤと同様に持っていました。イザヤはひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。……権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神／永遠の父、平和の君」と唱えられる。(イザ 9:3)や、エッセイの株からひとつの芽が萌えいで／その根からひとつの若枝が育ち／その上に主の霊がとどまる。(イザ 1:5)と、永遠の平和の指導者が与えられることを予言しています。ミカも全く同様に、ダビデ王を慕い、治める者が出現し、エフラタのベツレヘムよ／お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために／イスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。……彼は立って、群れを養う／主の力、神である主の御名の威厳をもって。彼らは安らかに住まう。今や、彼は大いなる者となり／その力が地の果てに及ぶからだ。彼こそ、まさしく平和である。(5:1)と平和の主として、民を守り導くことを予言しています。

ミカは自らの民の罪のため、主の怒りを負わざるを得ず、裁かれることを受け入れています。隣人、家族でさえも信頼しません。けれども、たとえ倒れても、私は起き上がる。たとえ闇の中に座っていても／主こそわが光。(7:8)とどん底にいても神を仰ぐ強い信仰によって、希望を失っていません。

ミカの夢見る世界はあなたの杖を持って／ご自分の民を牧してください／あなたの嗣業である羊の群れを。彼らが豊かな牧場の森に／ただひとり守られて住み／遠い昔のように、バシャンとギレアドで／草をはむことができるように。(7:14) と激しい言葉からは想像できないような、寡黙で、穏やかな、ささやかなもので満たされるような牧歌的な世界です。